# 研究・調査報告書

| 分類番号 | | 報告書番号 | 担当 |
|---|---|---|---|
| A-136 | | 17-067 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之 |

**題名（原題／訳）**

Association of Alcohol Drinking Patterns With Presence of Impaired Fasting Glucose and Diabetes Mellitus Among South Korean Adults.

韓国成人における飲酒パターンと空腹時血糖異常・糖尿病の関連

**執筆者**

Lim J, Lee JA1, Cho HJ.

**掲載誌**

J Epidemiol. 2018 Mar 5;28(3):117-124. doi: 10.2188/jea.JE20170021.

| キーワード | PMID |
|---|---|
| ハイリスク飲酒、空腹時血糖異常、糖尿病 | 29093361 |

**要　旨**

**目的：**

飲酒パターンと空腹時血糖異常(IFG)・糖尿病(DM)との関連を調べる。

**方法：**

韓国の国民健康・栄養調査 2010～2014 年のデータを用い、糖尿病の診断を受けていない30 歳以上を対象とした。ハイリスク飲酒は 1 回の飲酒で男性では 7 杯以上、女性では 5 杯以上とした。交絡因子の調整後、多項ロジスティック回帰分析により飲酒パターンと IFG・DM との関連を評価した。

**結果：**

男性では、ハイリスク飲酒は IFG・DM のオッズ比上昇と関連していた。ハイリスク飲酒者でない群と比較した場合､IFG を有するオッズ比はハイリスク飲酒 2-4 回/月で 1.51 (95%信頼区間[CI] 1.13-2.04)、2-3 回/週で 1.79 (95%CI 1.38-2.33)、4 回/週以上で 2.24 (95%CI 1.65-3.03)、DM のオッズ比はハイリスク飲酒 2-4 回/月で 2.12 (95%CI 1.20-3.77)、2-3 回/週で 1.78 (95%CI 1.05-3.03)、4 回/週以上で 2.98 (95%CI 1.72-5.17)であった。女性では、ハイリスク飲酒は IFG のリスク上昇と関連しており､IFG のオッズ比はハイリスク飲酒 2-4 回/月で 1.51 (95% CI1.04-2.21)、2-3 回/週で 3.19 (95%CI 2.20-4.64)、4 回/週以上で 2.23 (95%CI 1.23-4.06)であったが、DM に関しては月 1 回以下飲酒の非ハイリスク飲酒者と比べてオッズの上昇は見られなかった（すなわち関連はなかった)。非ハイリスク飲酒者間の検討では、男性では週 4 回以上飲酒者が月 1 回以下飲酒者と比較してオッズが高かったが、女性では逆にオッズは低かった。

**結論：**

ハイリスク飲酒は定期的でなくても、非ハイリスク飲酒者と比べて男女ともに IFG の可能性が高く、男性では DM の可能性が高かった。男性では、ほぼ連日の飲酒は DM のリスク上昇と関連していたが、女性では DM のリスク低下と関連していた。